

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

# 思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

## ■ 平成22年の主な出来事

いよいよ平成23年が始まりました。本年も、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、昨年1年間を振り返って見ますと、思川開発事業は、検証対象事業となったことから、新たな段階に入ることなく、現段階を継続するという一方で、仮排水路・放流管敷設トンネル工事や付替県道工事を進めるとともに、貯水池内を中心に、土砂災害防止対策などの安全対策工事を実施してきました。そして、地元関係者の方々に対する現地見学会などにも積極的に取り組んできました。

仮排水路・放流管敷設トンネルは、平成21年3月から工事に着手し、昨年5月にトンネルが貫通しました。本年2月の完成を目指し、鋭意工事を進めています。

付替県道では、4号トンネル（全長576m）が、昨年6月に貫通し、本年3月には完成する予定です。1号トンネル（全長942m）は、昨年3月から工事に着手し、約330mの掘削が完了しました。5号橋は、昨年3月から工事に着手し、橋脚の工事を進めています。6号、8号橋は、3面でご説明します。

安全対策工事としては、貯水池内で、植生マットによる土砂流出防止対策や沈砂池等の設置による濁水の流出の抑制及び防止を図るための工事を実施するとともに、取水導水地域では、浸水防止対策などの工事を実施しました。



仮排水路トンネル(下流側吐口)



完成間近の付替県道4号トンネル



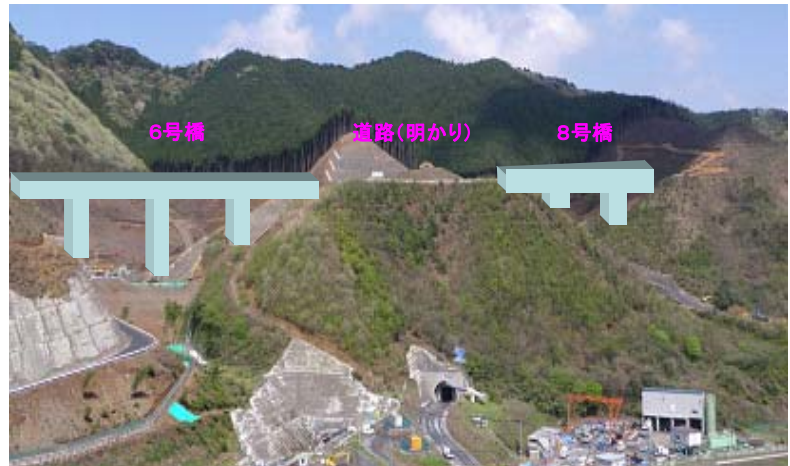
付替県道5号橋下部工工事



## 付替県道6号橋・8号橋工事の紹介

南摩ダムでは、県道上久我郡都賀栃木線の付替県道工事を進めています。付替県道は、上南摩町杓子沢地先と笹之越路地先を結ぶ延長約 6.4km で、4 本のトンネルと 8 つの橋梁が計画されています。付替県道の工事は、平成 18 年 11 月に着手して、これまでに約 1.1km が完成しました。

現在、ダムサイト下流部の杓子沢工区をはじめとする約 3.6km の区間で工事を進めています。今回は、ダムサイト上流で建設が進んでいる 6 号橋及び 8 号橋の工事をご紹介します。



6 号橋は、南摩ダムの貯水池に架かる最も長い橋で、橋長が 152m あります。この橋は、4 径間連続非合成鋼桁という鋼材で作る橋で、3 本の橋脚があります。最も高い橋脚は、38m もあり、10 階建てのビルと同じくらいの高さがあります。

一昨年の 11 月から工事に着手し、3 本の橋脚と橋台が完成し、現在、桁の架設工事を進めています。



付替県道6号橋の全景

現在、6 号橋と同様に一昨年の 11 月から工事に着手し、橋脚と橋台が完成し、桁の架設工事を進めています。

2 つの橋は、ともに今年の秋の完成を目指していますが、今後も安全を第一に工事を進めてまいりますので、よろしくお願い致します。【工事課】

8 号橋は、杓子沢から付替県道がトンネルを抜けて、南摩ダムの貯水池に入ると、最初に通過する橋です。この橋は、橋長 135.2m の 3 径間連続非合成鋼桁という、こちらも鋼材で作る橋です。6 号橋の橋脚ほど高くはありませんが、2 本の橋脚は 20m を超えます。



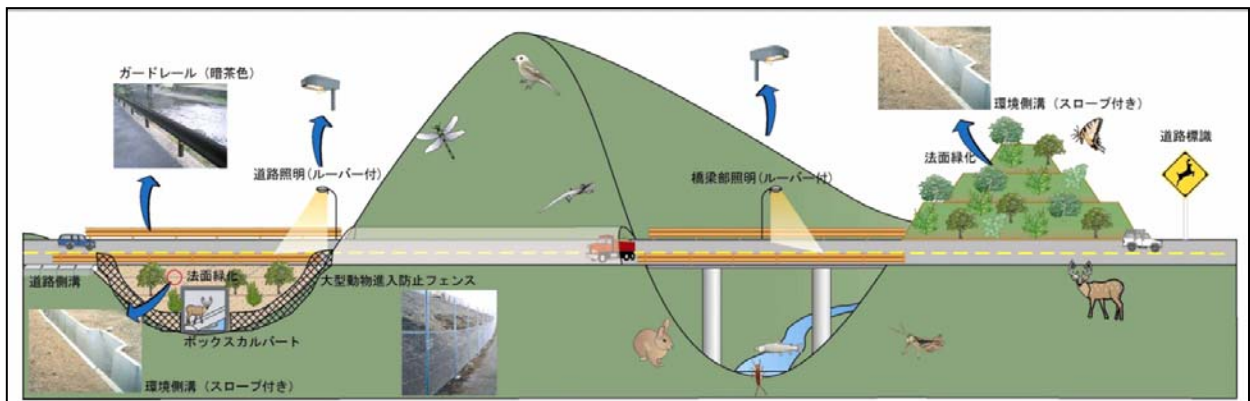
ダムサイト左岸から見た付替県道8号橋



## 付替県道における環境保全計画 ～南摩エコロード～

思川開発事業では、栃木県、鹿沼市及び機構が策定した環境基本計画などの理念を受け、付替県道の一部区間を南摩エコロードとして設定し、自然環境に配慮した道路作りを目指しています。設定区間は、山林や河川などの自然的な環境の中に道路を新設する区間とし、上流側は所久保地区、下流側は杓子沢地区（事業の山間開始地点）としています。

<南摩エコロードのイメージ>



道路法面の緑化にあたっては、在来種子が含まれている森林伐採跡地にある表土を法面緑化材料として用いるとともに、周辺で採取したドングリ等の種を植えるなどによって、郷土種による緑化を目指すことで、景観の調和や植生の復元を図る計画としています。

道路や橋梁の照明については、できる限り道路以外を照らさないような遮光構造とすることで、生態系攪乱防止、ロードキル（動物が道路上で車に轢かれる現象のこと）の低減を図ります。

道路側溝については、小動物が側溝に落ちても、自力ではい出せるようにスロープを設けます。（写真1）ガードレールについては、色彩に配慮し、ガードレールの色を茶色（写真2）とし、景観の調和を図ります。【環境課】



写真1 スロープの付いた側溝



写真2 杓子沢工区に設置したガードレール



## 思川開発事業の検証が始まりました

思川開発事業(南摩ダム)については、昨年9月28日付けで国土交通大臣から検証を進めるよう指示がありました。

検証に係る検討にあたっては、関係地方公共団体からなる検討の場を設置することとなっており、12月24日に、「思川開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場」の第1回幹事会が開催されました。【調査設計課】



## 平成22年 重大事故ゼロを達成！



職員による安全パトロールの実施

思川開発事業では、一昨年、仮排水路トンネル工事で2件の重大事故が発生しました。

このことを受けて、平成22年度は、重大事故ゼロを目標に、工事の安全管理に取り組むこととしました。この取組の結果、平成22年度上半期では、重大事故ゼロ並びに労働災害ゼロを達成することができました。これからも、安全管理を最重要課題として取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。【工務課】

## 編集後記

この冬は、いつになく寒くて乾燥した日が続いています。そして、インフルエンザのニュースも聞こえてくるようになりました。外出後のうがいと手洗いは忘れないようにしましょう。

### 人事異動

◆転出者(1月1日付)  
工事課 南里康久

◆転入者(1月1日付)  
工事課 高橋隆士

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

ホームページ

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>